

7 環境について

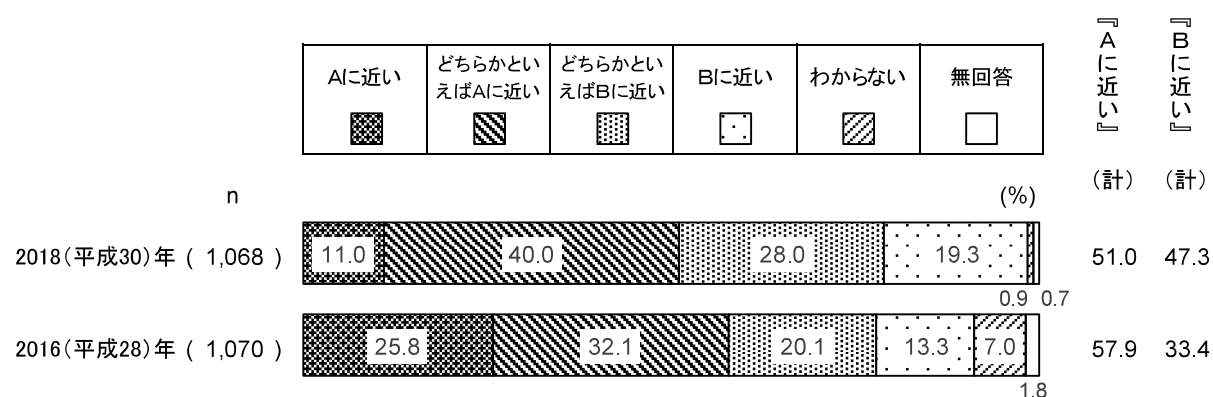
(1) 環境保全と経済の発展や生活の利便さの優先度

問 21 (すべての方に)「環境保全の大切さ」か「経済の発展や生活の利便さ」の優先については、次のA・B 2つの考えがあります。あなたの考えに最も近いものをお答えください。(○は1つ)

A 経済コストがかかっても、地球環境に負荷(負担)の少ない生活スタイルを選ぶ

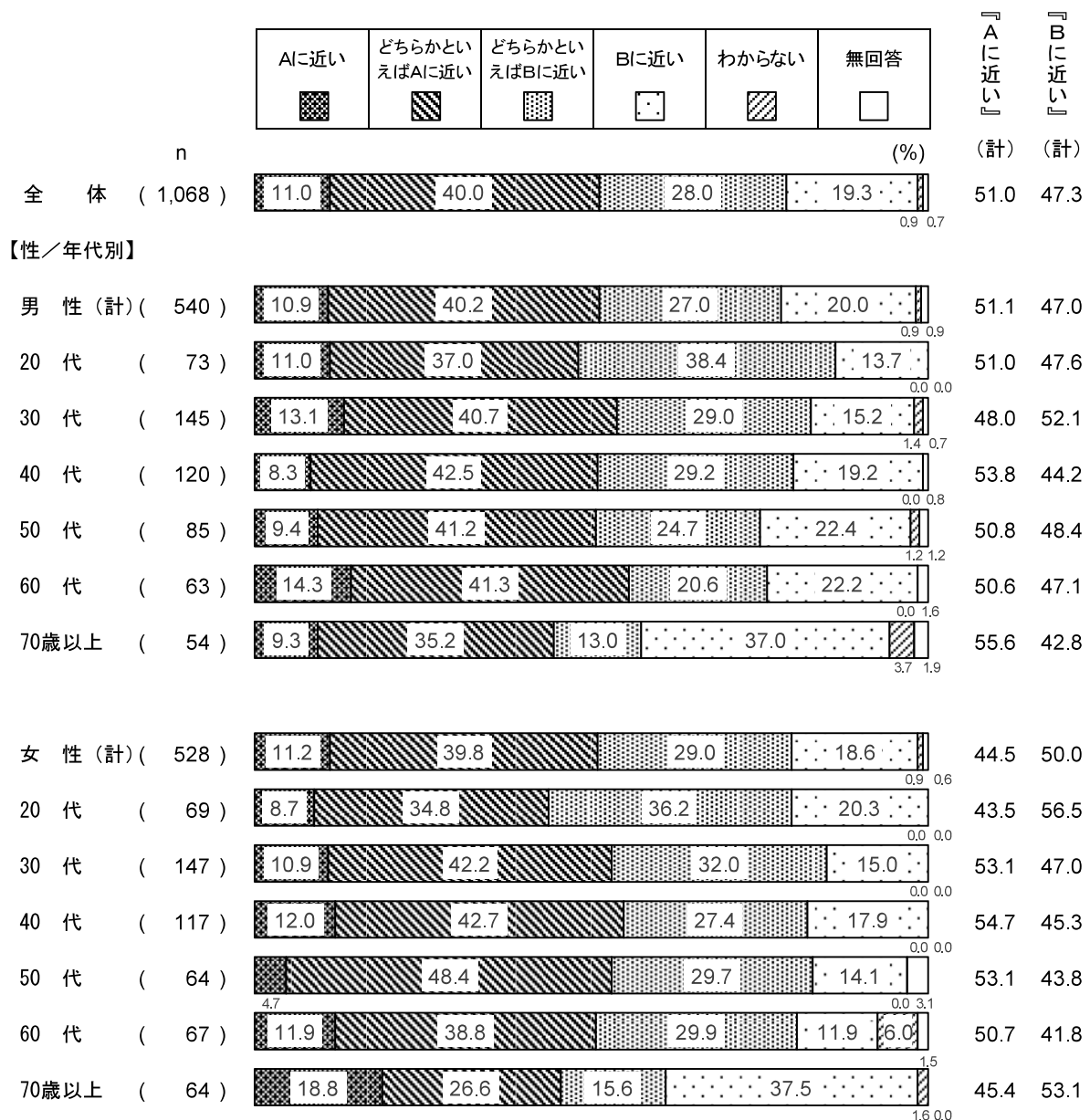
B 地球環境の大切さはわかるが、便利さ・安さを優先させる

【環境保全と経済の発展や生活の利便さの優先度 (全体)】



全体で見ると、「Aに近い」(11.0%)と「どちらかといえばAに近い」(40.0%)を合わせた『Aに近い』は51.0%となっている。一方、「どちらかといえばBに近い」(28.0%)と「Bに近い」(19.3%)を合わせた『Bに近い』は47.3%となっている。

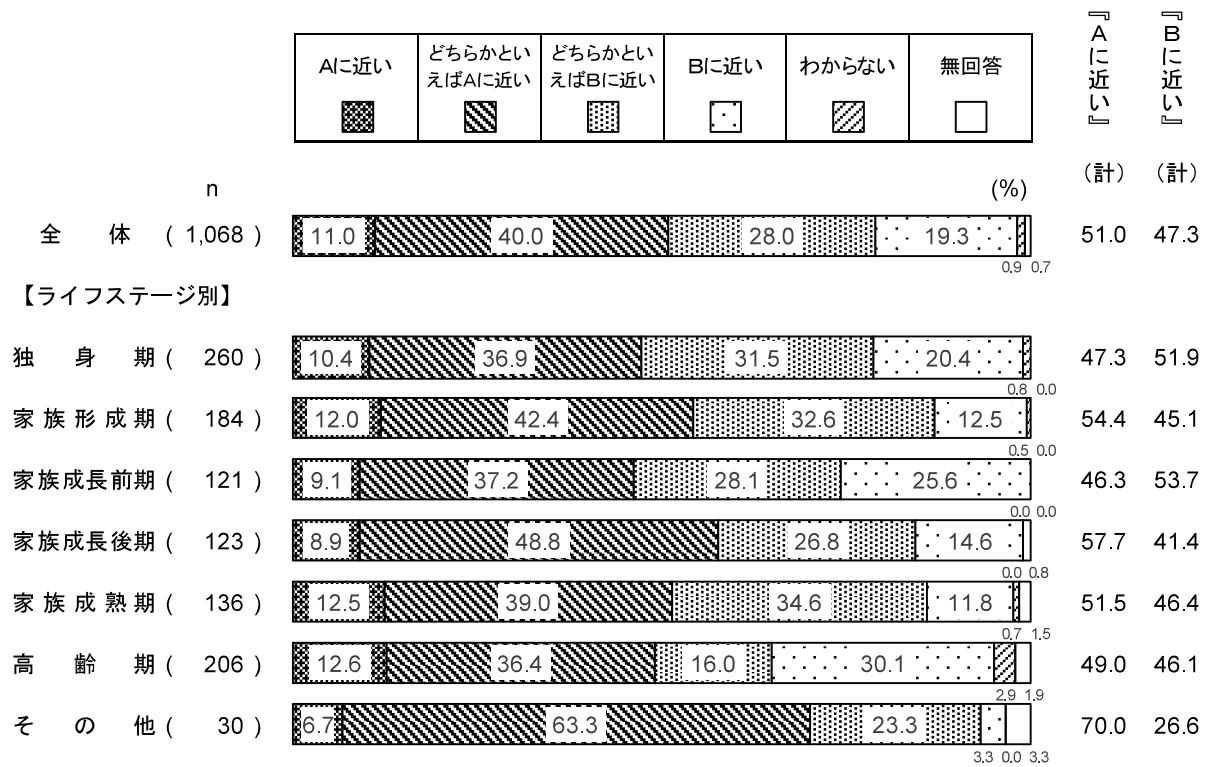
【環境保全と経済の発展や生活の利便さの優先度（性／年代別）】



性別にみると、男性と女性で大きな違いはみられない。

性／年代別にみると、男性、女性ともに、『Aに近い』（＝「Aに近い」＋「どちらかといえばAに近い」）は30代から60代で半数以上を占めている。また、男性、女性ともに70歳以上では「Bに近い」の割合がそれぞれ3割台後半となっており、他の年代に比べて高くなっている。

【環境保全と経済の発展や生活の利便さの優先度（ライフステージ別）】

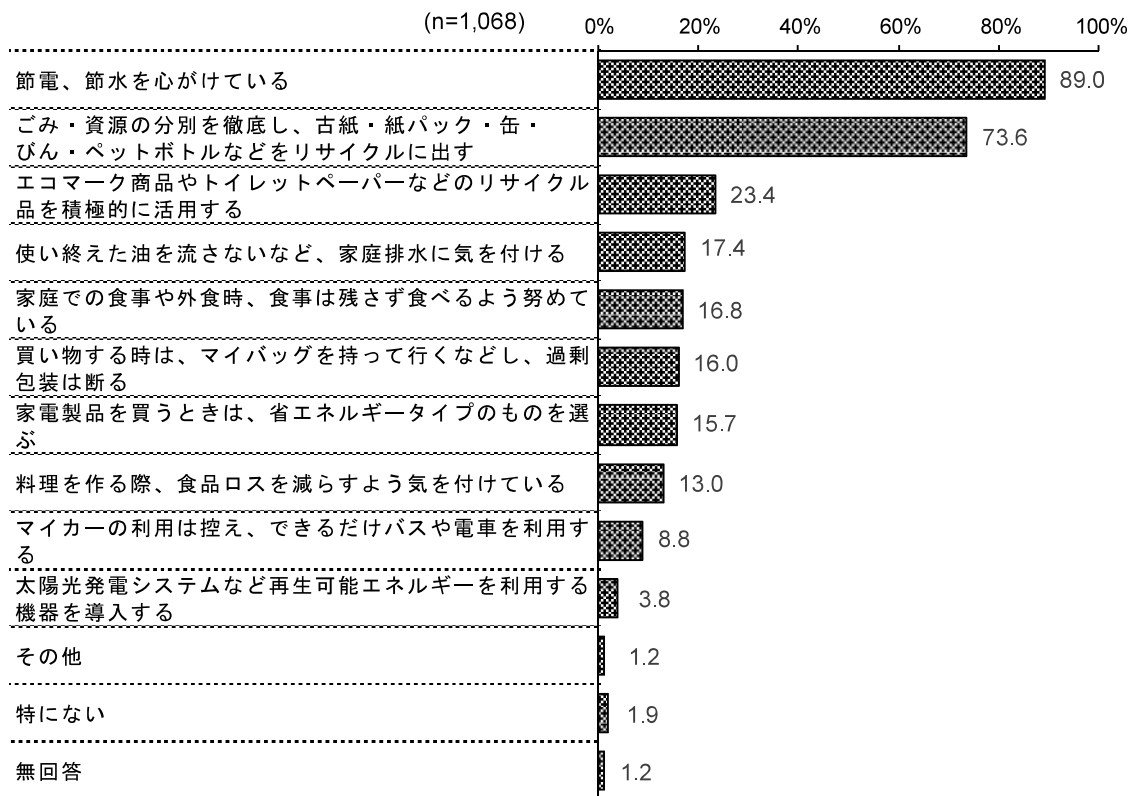


ライフステージ別にみると、家族形成期、家族成長後期、家族成熟期では、『Aに近い』（＝「Aに近い」＋「どちらかといえばAに近い」）が過半数となっている。一方、独身期、家族成長前期では『Bに近い』（＝「どちらかといえばBに近い」＋「Bに近い」）が過半数となっている。

(2) 環境を守るために日常生活で心がけていること

問 22 (すべての方に) あなたの家庭では、環境を守るために日常生活で心がけていることがありますか。(〇はいくつでも)

【環境を守るために日常生活で心がけていること (全体)】



全体で見ると、「節電、節水を心がけている」が 89.0%で最も高く、次いで「ごみ・資源の分別を徹底し、古紙・紙パック・缶・びん・ペットボトルなどをリサイクルに出す」が 73.6%で、この2項目が他の項目に比べ、突出して高くなっている。

【環境を守るために日常生活で心がけていること（性／年代別、ライフステージ別）】

(%)

項目 属性 n	節電、節水を心がけている	ごみ・資源の分別を徹底し、古紙・紙パック・缶・びん・ペットボトルなどをリサイクルに出す	エコマーク商品やトイレットペーパーなどのリサイクル品を積極的に活用する	使い終えた油を流さないなど、家庭排水に気を付ける	家庭での食事や外食時、食事は残さず食べるよう努めている	どし、過剰包装は断る	買い物する時は、マイバッグを持って行くなどし、過剰包装は断る	家電製品を買うときは、省エネルギータイプのものを選ぶ	料理を作る際、食品ロスを減らすよう気を付けている	マイカーの利用は控え、できるだけバスや電車を利用する	太陽光発電システムなど再生可能エネルギーを利用する機器を導入する	その他	特になし	無回答
	全体 (1,068)	89.0	73.6	23.4	17.4	16.8	16.0	15.7	13.0	8.8	3.8	1.2	1.9	1.2
【性／年代別】														
男性(計) (540)	88.1	73.9	20.9	10.4	15.6	10.7	12.6	7.4	8.3	4.4	1.2	2.4	1.9	
20代 (73)	82.2	72.6	16.4	9.6	16.4	6.8	11.0	4.1	5.5	1.4	0.7	6.8	1.4	
30代 (145)	90.3	71.0	22.8	6.2	10.3	8.3	9.7	8.3	3.4	3.4	1.4	0.7	1.4	
40代 (120)	86.7	70.8	17.5	6.7	10.8	15.8	9.2	5.8	8.3	5.8	0.7	1.7	5.0	
50代 (85)	91.8	82.4	22.4	10.6	20.0	9.4	16.5	9.4	17.6	9.4	0.0	1.2	0.0	
60代 (63)	82.5	79.4	23.8	17.5	22.2	11.1	17.5	11.1	9.5	1.6	1.2	4.8	1.6	
70歳以上 (54)	94.4	70.4	24.1	22.2	24.1	13.0	18.5	5.6	9.3	3.7	0.0	1.9	0.0	
女性(計) (528)	89.8	73.3	25.9	24.6	18.0	21.4	18.9	18.8	9.3	3.2	1.9	1.3	0.6	
20代 (69)	87.0	72.5	23.2	10.1	11.6	7.2	8.7	5.8	2.9	0.0	1.7	4.3	1.4	
30代 (147)	95.2	69.4	19.7	12.2	6.8	7.5	7.5	10.2	4.8	3.4	0.0	0.7	0.0	
40代 (117)	89.7	71.8	17.1	23.1	14.5	22.2	17.9	17.1	7.7	3.4	2.0	0.9	0.0	
50代 (64)	90.6	84.4	35.9	34.4	29.7	23.4	31.3	17.2	9.4	6.3	1.7	0.0	0.0	
60代 (67)	83.6	74.6	35.8	43.3	29.9	46.3	34.3	38.8	20.9	4.5	1.6	0.0	1.5	
70歳以上 (64)	85.9	73.4	39.1	42.2	32.8	39.1	29.7	35.9	17.2	1.6	0.0	3.1	1.6	
【ライフステージ別】														
独身期 (260)	88.1	70.0	21.2	6.9	11.5	7.3	7.7	7.7	2.3	2.7	4.7	4.2	1.5	
家族形成期 (184)	92.9	71.2	20.7	10.3	8.7	10.3	7.6	7.6	6.0	2.7	1.2	1.1	0.5	
家族成長前 (121)	91.7	67.8	22.3	13.2	14.0	14.0	12.4	14.9	6.6	0.8	0.5	1.7	0.0	
家族成長後 (123)	88.6	78.0	17.9	17.9	15.4	18.7	16.3	9.8	12.2	6.5	0.8	0.0	3.3	
家族成熟期 (136)	90.4	80.9	26.5	25.0	17.6	15.4	23.5	14.7	13.2	8.1	0.8	0.0	0.7	
高齢期 (206)	86.9	74.8	33.0	32.5	30.1	30.1	25.2	24.3	14.6	2.9	1.5	1.9	1.5	
その他 (30)	70.0	83.3	6.7	30.0	36.7	33.3	43.3	16.7	20.0	10.0	1.9	3.3	0.0	

性別にみると、上位3項目の順位は男女で同じとなっている。男性と女性で差がある項目は、「エコマーク商品やトイレットペーパーなどのリサイクル品を積極的に活用する」(男性20.9%、女性25.9%)、「使い終えた油を流さないなど、家庭排水に気を付ける」(男性10.4%、女性24.6%)、「買い物する時は、マイバッグを持って行くなどし、過剰包装は断る」(男性10.7%、女性21.4%)となっている。

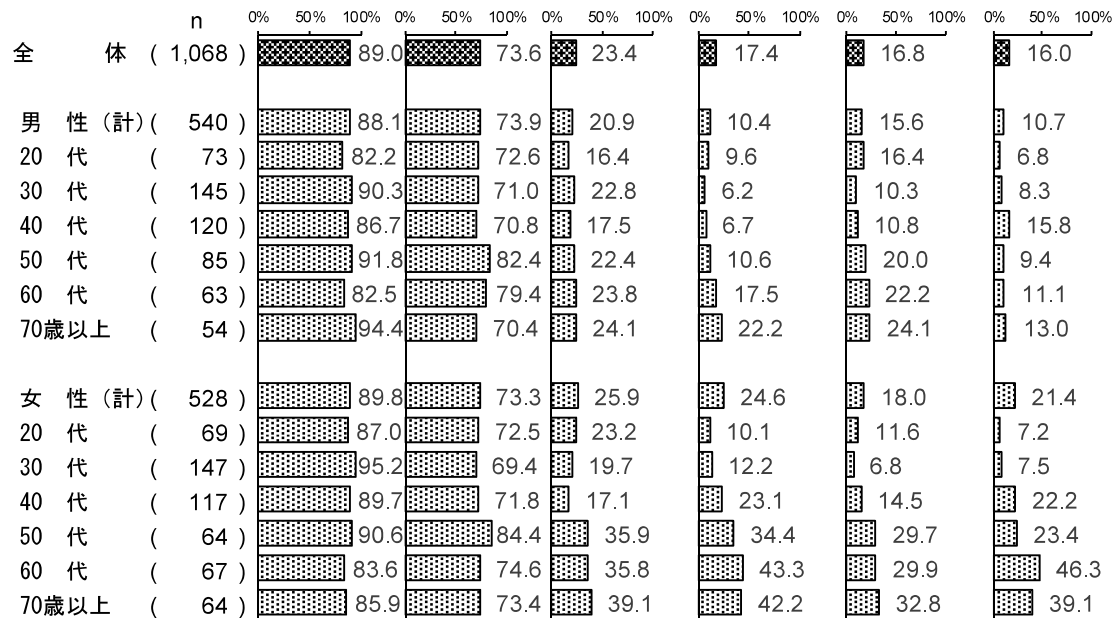
性／年代別にみると、全体の上位2項目について各項目で最も高いのは、「節電、節水を心がけている」では、男性70歳以上で94.4%、女性30代で95.2%となっている。「ごみ・資源の分別を徹底し、古紙・紙パック・缶・びん・ペットボトルなどをリサイクルに出す」では、男性50代で82.4%、女性50代で84.4%となっている。

ライフステージ別にみると、家族形成期から高齢期までライフステージが進むにつれて、全体的には意識が高まっている傾向がみられる。

【環境を守るために日常生活で心がけていること（性／年代別、ライフステージ別）】

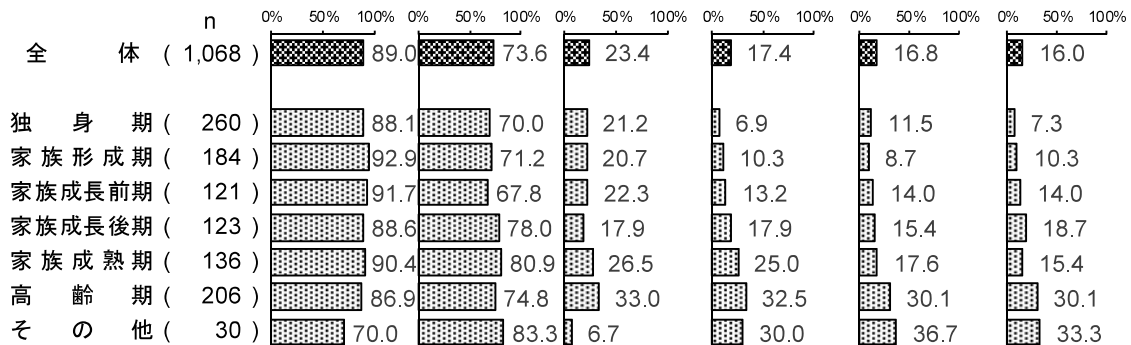
【性／年代別】

節電、節水を心がけている
 ごみ・資源の分別を徹底し、古紙・紙パック・缶・びん・ペットボトルなどをリサイクルに出す
 エコマーク商品やトイレトーパーパーなどのリサイクル品を積極的に活用する
 使い終わった油を流さないなど、家庭排水に気を付ける
 家庭での食事や外食時、食事は残さず食べるよう努めている
 買い物する時は、マイバッグを持って行くなどし、過剰包装は断る



【ライフステージ別】

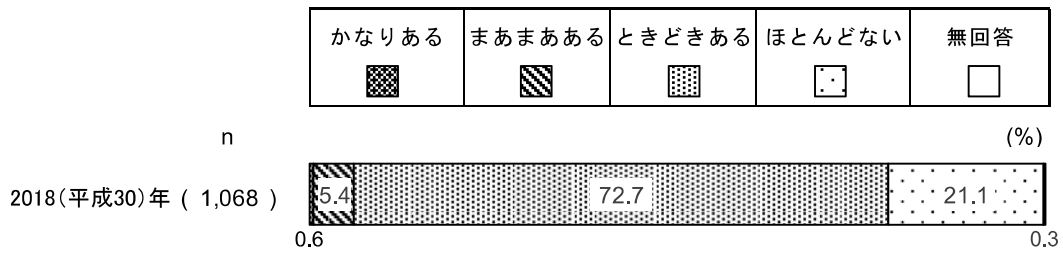
節電、節水を心がけている
 ごみ・資源の分別を徹底し、古紙・紙パック・缶・びん・ペットボトルなどをリサイクルに出す
 エコマーク商品やトイレトーパーパーなどのリサイクル品を積極的に活用する
 使い終わった油を流さないなど、家庭排水に気を付ける
 家庭での食事や外食時、食事は残さず食べるよう努めている
 買い物する時は、マイバッグを持って行くなどし、過剰包装は断る



(3) 家庭で食品がまだ食べられるのに捨ててしまった経験

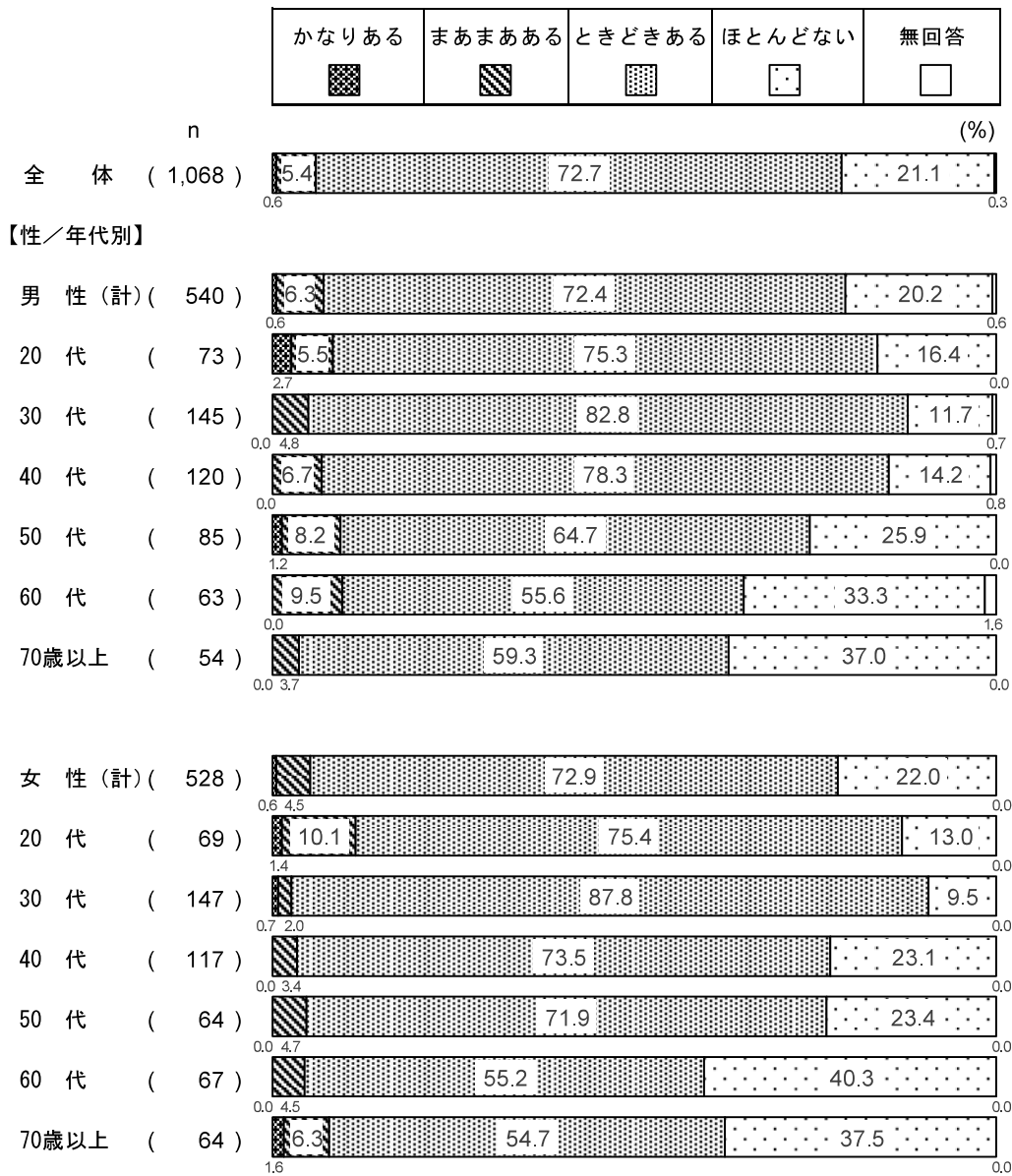
問 23 (すべての方に) 賞味期限切れや食べ残し、調理過程での過剰除去などにより、まだ食べられるのに食品が捨てられてしまう問題があります。あなたの家庭においても、食品がまだ食べられるのに捨ててしまうことはありますか。(○は1つ)

【家庭で食品がまだ食べられるのに捨ててしまった経験 (全体)】



全体で見ると、「ときどきある」の割合が最も高く、72.7%となっている。「ほとんどない」は21.1%となっている。

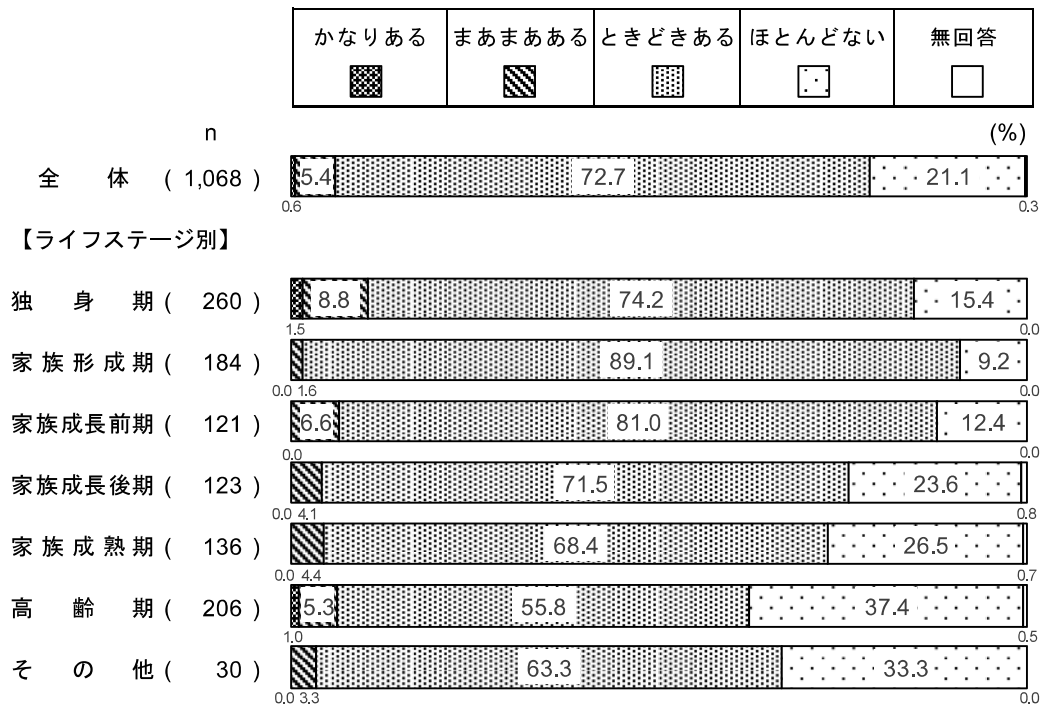
【家庭で食品がまだ食べられるのに捨ててしまった経験（性／年代別）】



性別にみると、男性と女性で大きな違いはみられない。

性／年代別にみると、男性では年代が上がるにつれて「ほとんどない」の割合が高くなる傾向がみられる。女性でも、男性と同様に年代が上がるにつれて「ほとんどない」の割合が高くなる傾向がみられ、女性60代で40.3%と最も高くなっている。

【家庭で食品がまだ食べられるのに捨ててしまった経験（ライフステージ別）】

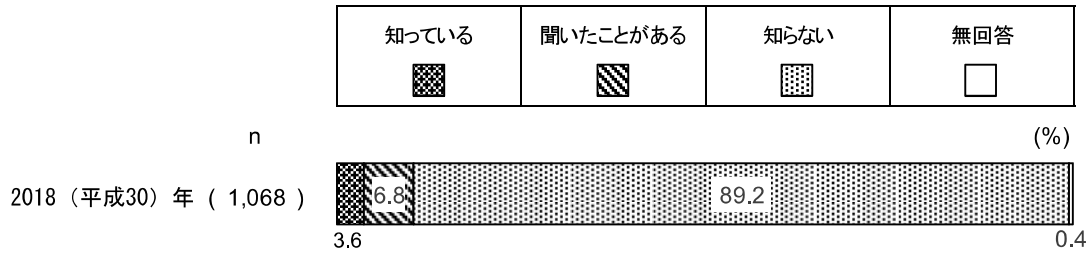


ライフステージ別にみると、家族形成期から高齢期までライフステージが進むにつれて、「ほとんどない」の割合が高くなっている。

(4) フードドライブ認知度

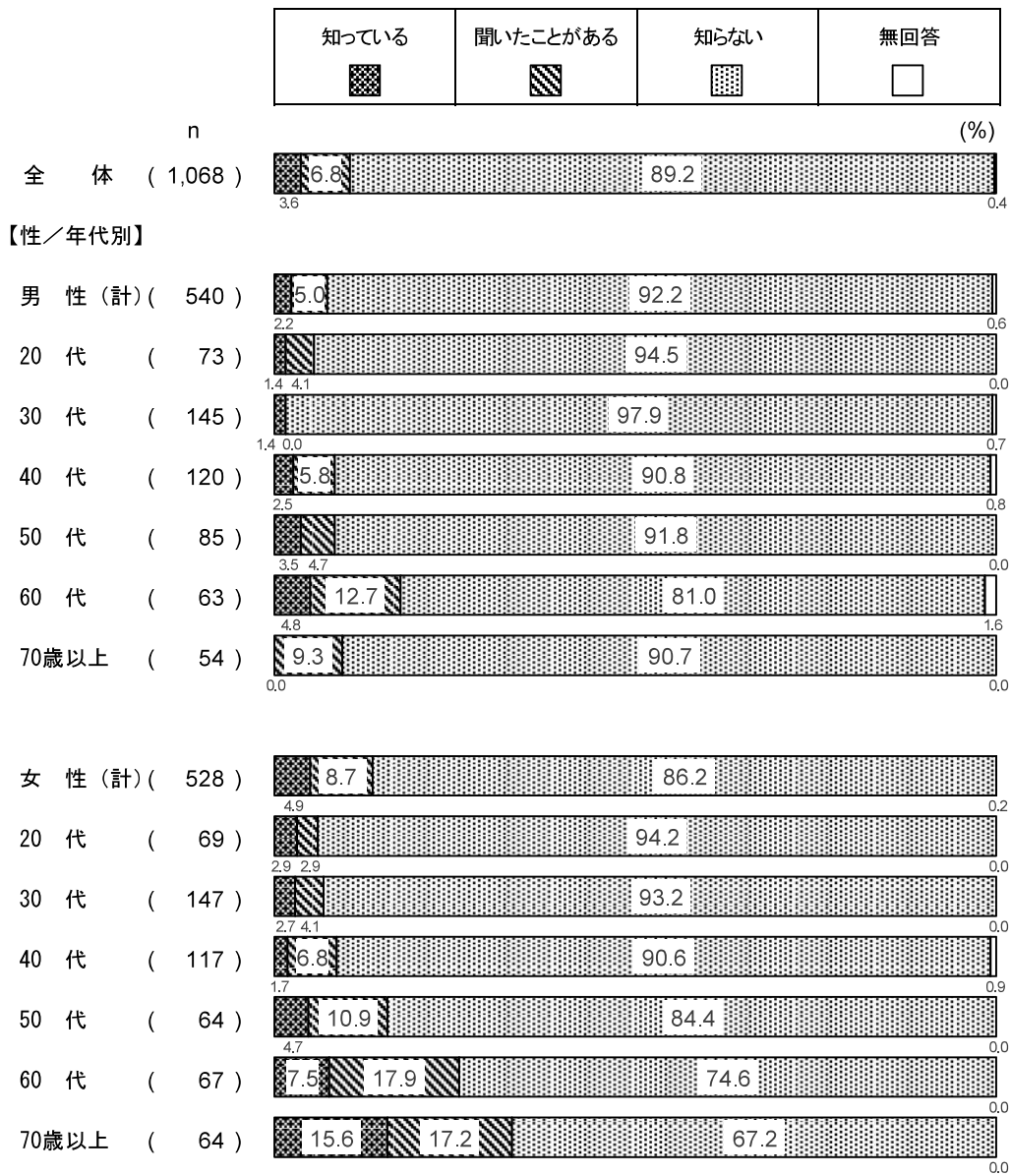
問 24 (すべての方に)使い切れない食品を寄付する行動をフードドライブといいます。
あなたは、フードドライブを知っていますか。(○は1つ)

【フードドライブ認知度 (全体)】



全体で見ると、フードドライブについて、「知っている」(3.6%)と「聞いたことがある」(6.8%)の合計は10.4%となっている。

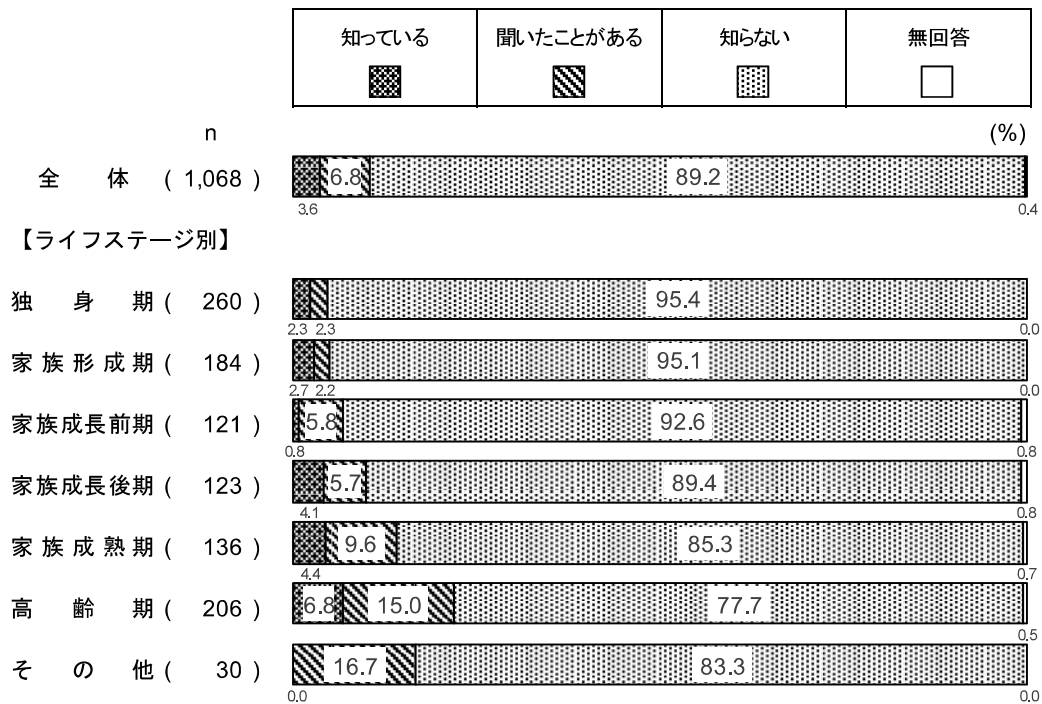
【フードドライブ認知度（性／年代別）】



性別にみると、「知っている」と「聞いたことはある」の両方で、男性より女性のほうがわずかに割合が高い。

性／年代別にみると、男性では、60代で「知っている」と「聞いたことはある」の割合が、それぞれ最も高くなっている。女性では年代が上がるにつれて、「知っている」と「聞いたことはある」の合計の割合が高くなっている。

【フードドライブ認知度（ライフステージ別）】

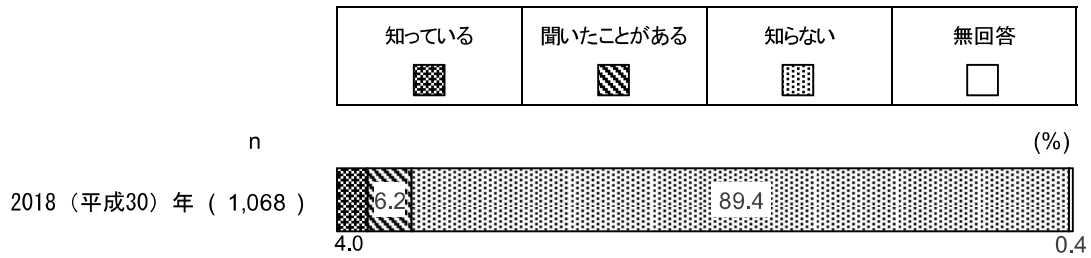


ライフステージ別にみると、家族形成期から高齢期まで、ライフステージが進むにつれて、「知っている」と「聞いたことはある」の合計の割合が高くなっている。

(5) フードバンク認知度

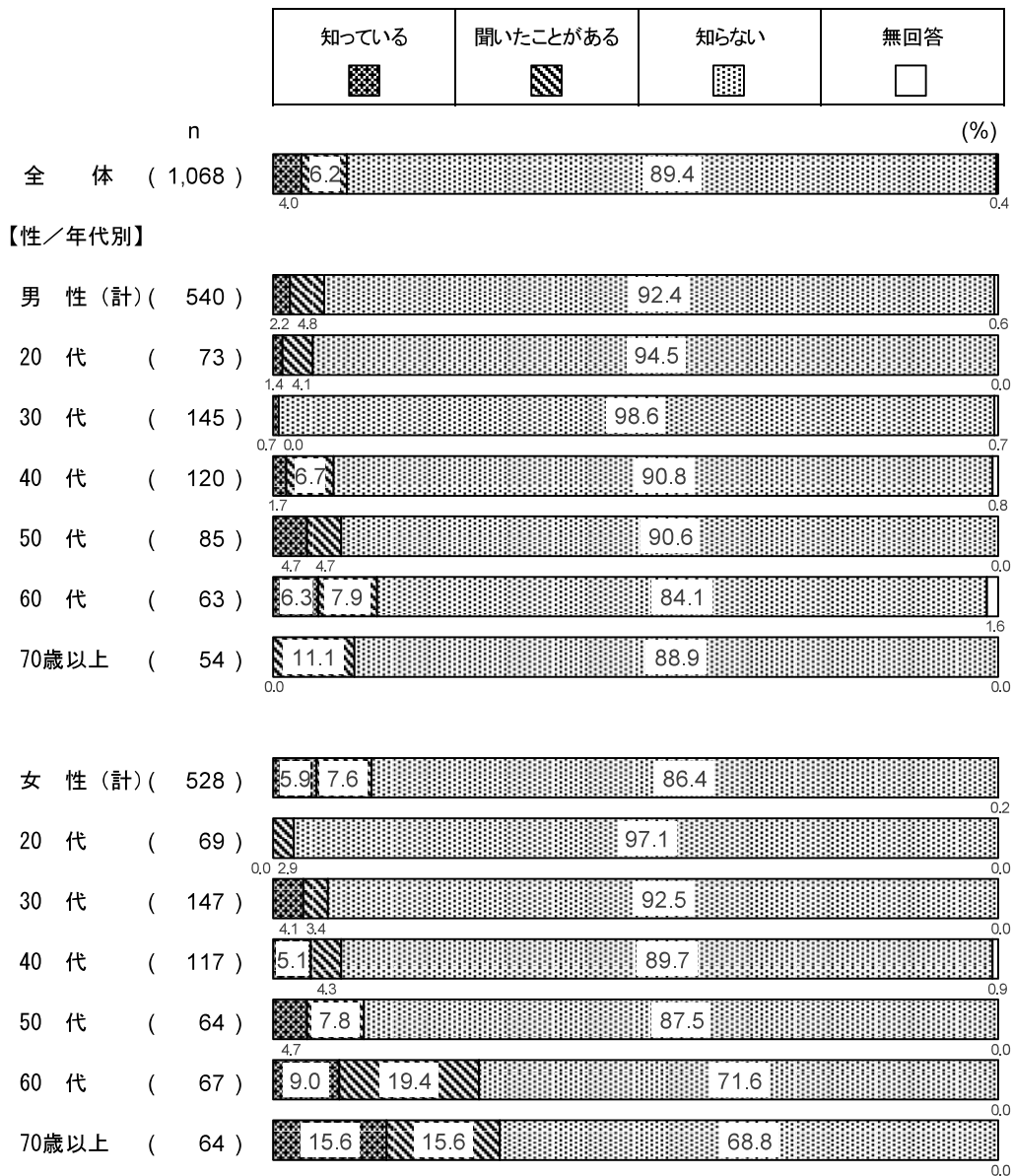
問 25 (すべての方に) 寄付で集まった食品を福祉施設などに提供する活動をフードバンクといいます。あなたは、フードバンクを知っていますか。(○は1つ)

【フードバンク認知度 (全体)】



全体で見ると、フードバンクについて、「知っている」(4.0%)と「聞いたことがある」(6.2%)の合計は10.2%となっている。

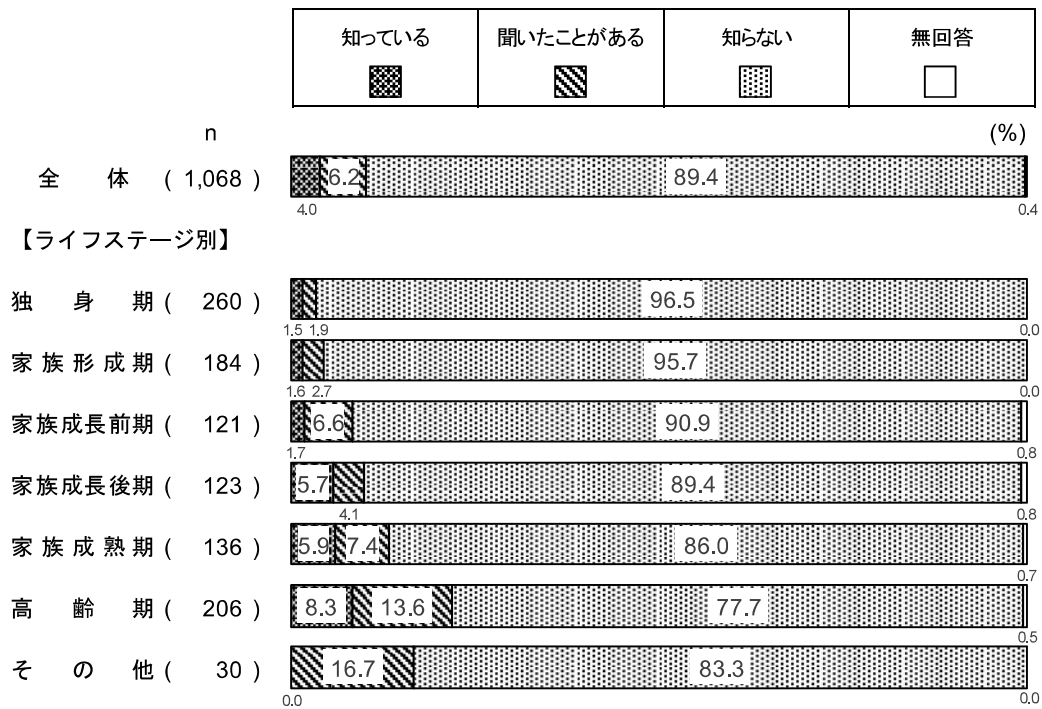
【フードバンク認知度（性／年代別）】



性別にみると、「知っている」では、男性（2.2%）より女性（5.9%）のほうが3.7ポイント高く、「聞いたことはある」でも、男性（4.8%）より女性（7.6%）のほうが高い。

性／年代別にみると、男性では、60代で「知っている」と「聞いたことはある」の割合が、それぞれ最も高くなっている。女性では年代が上がるにつれて、「知っている」と「聞いたことはある」の合計の割合が高くなっている。

【フードバンク認知度（ライフステージ別）】

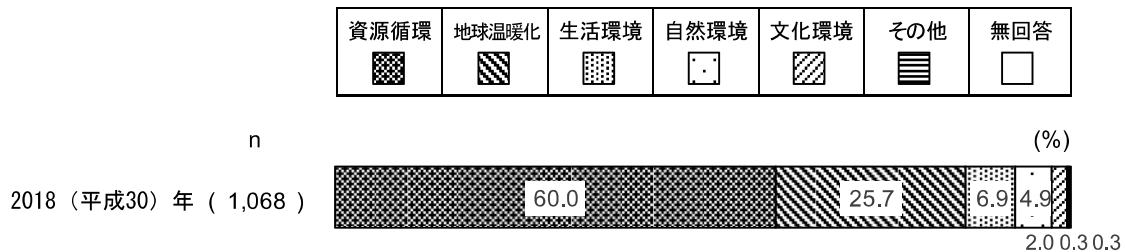


ライフステージ別にみると、家族形成期から高齢期まで、ライフステージが進むにつれて、「知っている」と「聞いたことはある」の合計の割合が高くなっている。

(6) 環境について、あなたが最も関心のある項目

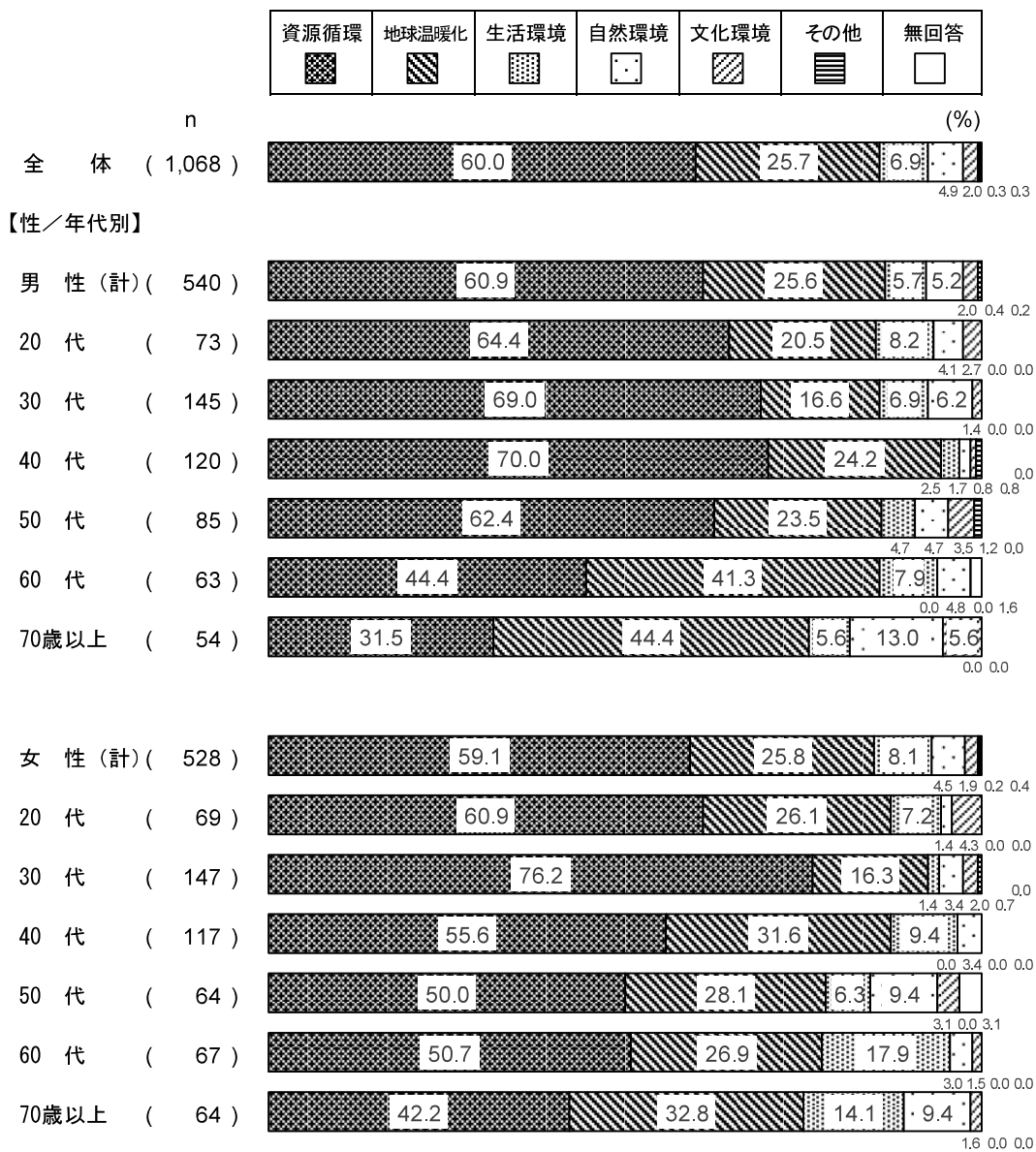
問 26 (すべての方に) 環境について、あなたが最も関心のある項目を選んでください。
(○は1つ)

【環境について、あなたが最も関心のある項目 (全体)】



全体で見ると、「リサイクルなど資源循環に関すること」が最も高く 60.0%、次いで「地球温暖化に関すること」(25.7%)、「大気汚染や騒音など生活環境に関すること」(6.9%)、「水やみどり・生物など自然環境に関すること」(4.9%)、「歴史ある街並みや伝統を大切に文化環境に関すること」(2.0%)の順となっている。

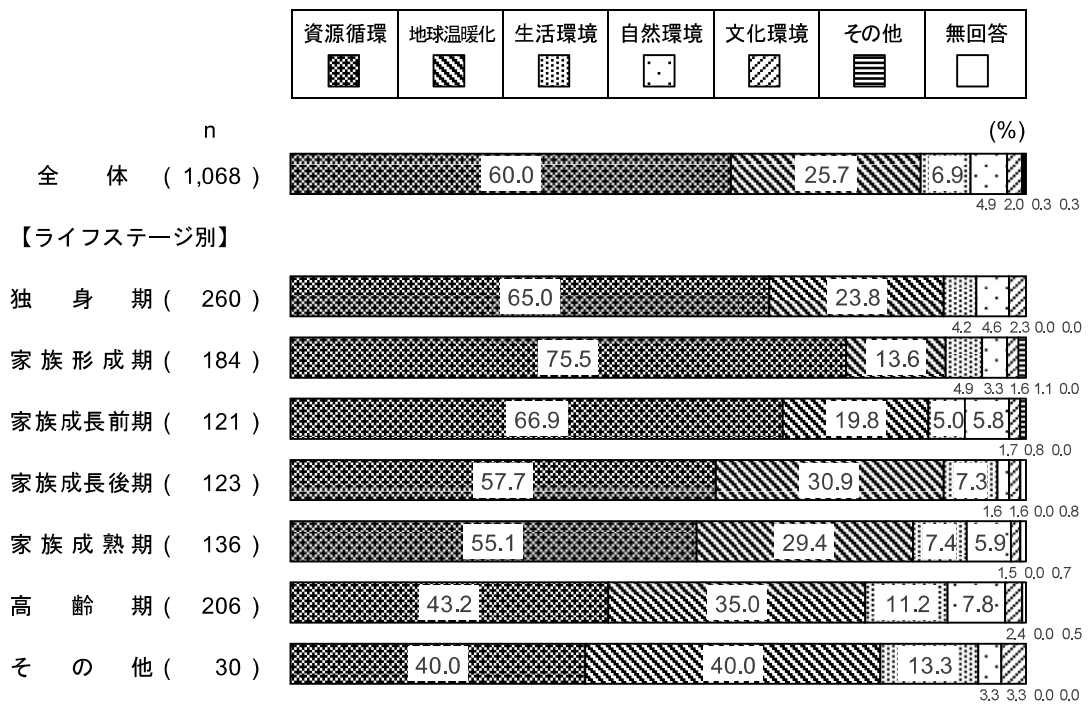
【環境について、あなたが最も関心のある項目（性／年代別）】



性別にみると、男性と女性で大きな違いはみられない。

性／年代別にみると、男性、女性のいずれも、若い年代では「リサイクルなど資源循環に関すること」への関心が高く、年代が上がるにつれ、「地球温暖化に関すること」の割合が高くなっている。女性 60 歳以上では「大気汚染や騒音など生活環境に関すること」が他の年代に比べ関心が高くなっている。

【環境について、あなたが最も関心のある項目（ライフステージ別）】



ライフステージ別にみると、ライフステージ初期では「リサイクルなど資源循環に関すること」への関心が高く、ライフステージが進むにつれ、「地球温暖化に関すること」への関心が高くなっている。